

平成29年度 行政評価事業別シート

実計対象		☐	評価対象	☒	新規	☐	完了事業	☐	ゼロ予算事業	☐	担当者	窪田潤一
全体計画						経費区分	—			内線	3414	
事務事業名		4164 産地ブランド推進事業										
所 属		150100 産業振興部・農林課										
施 策		05012100 農業の活性化										
予 算		01 一般会計										
科 目		060103 農林水産業費・農業費・農業振興費										
事 業		060000 産地ブランド推進事業										
事業目的						事業概要・効果						
須坂産農産物のブランドイメージの向上、新たな農産物のブランド化が求められているほか、グリーンツーリズムなど新たな農業の展開を想定した取り組みが必要。						振興果樹の生産拡大による産地ブランドの構築、体験型農業をはじめとしたグリーンツーリズム・地産地消等の推進もって、ブランド化がすすむ。						

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
新農業創生活動事業補助 1団体 100千円 新品種導入事業補助 1200千円 農業体験プログラム参加者 90人	新農業創生活動事業補助 2団体 113千円 新品種導入事業補助 1200千円 農業体験プログラム参加者 106人
平成29年度 予定	平成30年度 予定
新農業創生活動事業補助 5団体 500千円 振興品種振興事業補助 1500千円 農業体験プログラム参加者 90人	
平成31年度 予定	平成32年度 予定

指標名	グリーンツーリズム体験プログラム参加人数				
算式					
年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	目標	90	90	90	90
	実績	106			
指標選定の理由	農業と観光が連携することで、体験交流型農業の推進を図る。				
最終年度目標の根拠	150人（H26）の参加者だが最終年度1.2倍を目標とした。				
指標名					
算式					
年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					
指標名					
算式					
年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					

事業費

(単位：千円)

		平成28年度 決 算	平成29年度 予 算
事業費		3,400	6,426
特 定 財 源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	334	0
	地方債	0	0
	その他	323	0
一般財源		2,743	6,426
人員数 (人)	正規職員	1.3	1.3
	嘱託職員	1.0	1.6
	臨時職員	0.0	0.0
人 員 コスト	正規職員	9,384.7	9,384.7
	嘱託職員	2,755.0	4,408.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	12,139.7	13,792.7
市民一人当たりの経費		0.3	0.4
総額		15,539.7	20,218.7

(単位：千円)

平成28年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	268	講師謝礼 192千円
11節 需用費	770	消耗品 149千円 印刷製本費 309千円 修繕費 26千円
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	1,973	農業創生活動補助金（沼目越瓜・きじまるくらぶ） 113千円 果樹新品種導入補助金 1,200千円ほか
その他	389	役務費、備品購入費ほか

(単位：千円)

平成29年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	6	謝礼 6,000円
11節 需用費	384	消耗品費100,000円 食糧費10,000円 印刷製本費200,000円 修繕料84,000円
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	3,060	園芸産地育成振興対策補助金1,500,000円 新農業創生活動補助金500,000円ほか
その他	2,976	旅費 363,000円 役務費 55,000円

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	・市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか ・行政内部の管理運営上必要な事業であるか ・市が主体となり実施すべき事業か ・法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか ・目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか	普通
評価コメント	税収等の収入増に不可欠な事業である	
有効性	・事業の成果は上がっているか ・目標に対する達成度は十分か ・市民生活上の課題解決に貢献しているか ・行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか ・事業の目的が達成できるような事業内容になっているか	有効
評価コメント	効果判定が難しい事業であるが、都市農村交流を行う市民への支援により修学旅行の受入れなどが行える基盤が構築されているので有効性が高い	
効率性	・成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか ・効率性向上に努めているか ・使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか	変わらない
評価コメント	効果判定が難しいので成果の判別が困難であるが、手法等の工夫により事業効率に努めている	

振り返り（決算年度の取組み課題）

平成28年度は、ぶどうを中心とした高価格で取引される果物について好調であったが、りんごなど天候の影響の受けやすい作目については凍霜害をはじめ災害の影響を受け品質が悪い年であったがトップセールスをはじめ各PR活動を滞りなく実施することができた。また、健康づくり課など他課との連携により新しい切り口による消費者などへのPRが行うことができた。今後は、将来を見据えた活動ができるようなマーケティングなどを行いながら産地形成などの施策とともに事業を実施したい。

ACTION

1次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント	
結果を数値化することが難しいソフト面での事業もあるが、継続することが重要である。	

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
2次評価コメント	
果樹産地として一層のブランド化が求められる。そのため関係機関とも連携し計画に沿った取組みを行う。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	